

# 蓬萊町だより

第二十六号  
日会部  
三月三十日  
蓬萊町  
文化  
年九  
平成  
二  
年  
發行  
者  
編  
集

## 蓬萊町界限（その二十一）

大正元年（一九一二年）のわが町の2

林 順 信

◆蓬萊町の地図としては最初か……？

この世界にも類まれな大都市江戸・東京は

①その人口常に世界一 幕末人口百二十万

②世界一の火災多発都市

③あらゆる物資は上方からの船で運ばれた。

④江戸店の丁稚小僧や武家の若侍など単身赴任

都市の元祖

⑤従って、そば・すし・天ぷらなど、ファスト

フードの元祖も江戸

⑥情報都市としても最高、江戸出版物は豊富

などの大特色の中で、江戸という都市こそが、

現代東京の原点である。連絡にしても、公共機

関の土地にしても、江戸を引きずって来たとい

えよう。

情報の中の地図だが、江戸・東京ほど出版さ

れた地図の種類が多い都市もない。

今日、最も確かだとされる出版された江戸図の第一号は寛永九年の『武州豊島郡江戸荘図』というものだが、その版図の残存数きわめて少く都内でも五指を越えられないだろう。この図は江戸城を取り囲むきわめて狭い範囲で、麴町神田、日本橋、京橋くらいのお膝元だけの地図で、本郷は枠の外であった。

最もしっかりした最初の測量による江戸図は、遠近道印が編集代表として出された、いわゆる寛文五枚図で、寛文十一年（一六七一年）から十三年にかけて五枚出された。この寛文江戸図は、明暦三年の大火（いわゆる振袖火事で火元は本郷丸山東妙寺だった）後の江戸の第一次都市計画によるものであった。さきの寛永江戸図には、江戸城の五層の天守閣も描かれているし、城の周囲や神田や八丁堀には多数の寺院があり、その大きな木造の建物の火で江戸城へまで類焼したといわれた。そこで、現在蓬萊町をはじめ、駒込や谷中や四谷や牛込にある三百年以上経った古い寺院は、第一次都市計画で移って来たものであった。しかし、当時からその後に至るも江戸大絵というものが数々出版され、幕末には、二メートル四方以上の大きな、極彩色の江戸図まで安政年間から出されている。

同時に、江戸を三十一ほどに分けた『江戸切絵図』というのも吉文字屋版、平野屋版、尾張屋版、近吾堂版と出され、パターンパターンと経折

本仕立ての『江戸安見図』という携帯用区分図も延宝八年（一六八〇年）以来何度も出されて来た。

しかし、その区分の範囲は、蓬萊町のある本郷、湯島、駒込の一部や、小石川とか、小日向とかの比較的広い地域で、蓬萊町そのものの地図というものは、明治時代も終焉し、大正元年という年（一九一二年）に始めて出版されている。東京市区調査会が調査発行した。『地籍地図』というもので、旧十五区、つまり本郷区として、各町でその地図を印刷発行したもので、原本は築地にある京橋図書館に保管されている。同時に各町の地籍台帳というものも表示印刷されている。

この連載で、私がかつて書き記して来た中では、郁文館中学、第一初音館、第三初音館、三谷酒店、片山病院、草津温泉と神経科の森田正馬医院、及び各寺院が記入されているが、中では、浩妙寺隣の「追分警察署」というのが大正元年にあったということが意外である。後日調べるつもりであるが……。

今回は大正元年蓬萊町図を添付したが、地籍の方は、この広い蓬萊町に、地主五十筆しかない、中にはお一人で二つも三つも土地を持って居られた方が多いので、人名だと三十一名の少数となる。最も広い地主は七番地一の宮本央氏（麴町区上二番町二二）で約二四七四坪を所有

# 込 駒

大正元年図 (1912年)





していた。地価は四、四〇八円であったから、

一坪(三・三平米)あたり約一円七十八銭だった。恐らく大学出の初任給が二十五円くらいだったろうから、今昔の感にたえない。この宮本氏は、六の一にも一、九三〇坪の土地を、奥さんと思われる宮本ウタさんは二五番地に四〇六坪の土地を持っていた。七ノ二の郁文館中学は勿論棚橋一郎氏(丸山新町一七番地)で、約七四三坪と、別に六ノ三に約十三坪の土地をも所有していた。

この地図では、第一初音館と第三初音館が、私のすごした昭和十年頃では、位置が変わっている。

今回はいきなり、大正元年図をご紹介しますが、後日、明治、江戸など、比較的蓬萊町そのものがよくわかる様な地図を発表してゆきたいと思っています。

### 青年部主催

#### 「親と子供の工作会」

青年部代表 五十嵐 日出男

七月二十二日(旧親と子供の工作会)を行ないました。例年通り中央宣伝企画株式会社さんと国際ディスプレイ工業株式会社さんの協力を得まして、資材を提供していただき、酷暑の中、多数の大人と、子供さんの参加を得まして、盛大

に行なわれました。

本箱とか、イス、船、ゲーム板とかプロの作品かと間違えそうな作品が多数ありました。

今回は、元の公園跡の銀杏や、プラタナスの木の下で工作会を行いましたので、酷暑とはいえ、木蔭の下で、風に吹かれての気持ちいい工作が出来た事と思います。

なお、駒込警察防犯係の人達が来られましたこと。んな催し物は珍しいことだとのこと。

よいことは長く続けていただきたいとの事、防犯課の人は前もって防犯課に知らせてくだされば多少の協力をさせていたいただきたいとの事でした。

青年部の人事が替りまして初めての催しではない所があったかと思いますが、これからも努力して、よい会が出来るようになっていきたいと思えます。

皆様の御協力をお願い致します。



※根津様のお祭りも無事終了しました。今年はお恵まれたお天気ではありませんでしたが、山車も子供神輿もさわわりなく町内巡行をすることが出来ました。

※前号の「蓬萊だより」から印刷所が変わりました。これからは写真も印刷出来るそうですから、追い追いに目で見たい紙面にしたいと考えています。町内の方で「蓬萊だより」にのせて見たい写真(新しいもの古いものを問はず)がございましたらお借したいと思います。

※今回の二百三頁は、林順信先生がお持ちの大正元年(一九一二年)当時の蓬萊町の「地籍図」です。地籍図なので詳しい記載はないがこの地図の右下角、現在の「松下第二追分寮」の処に「追分警察署」とあります。この当時の事をご存知の方はおいででしょうか？

※先の老人の日の新聞に、全国で百才以上の老人が三千二百余人という事でしたが、大正四年の十一月十日に政府が長寿者に下賜金を下付しています。その数は全国で六百二十六人という事で、案外に長寿の人が多かった様です。

※暑かった夏も終り、しのぎ易い季節となりました。皆様の御健勝をお祈りします。

編集委員 小林音吉、竹中一馬、高橋一郎、

猪熊良晃、池田 暉